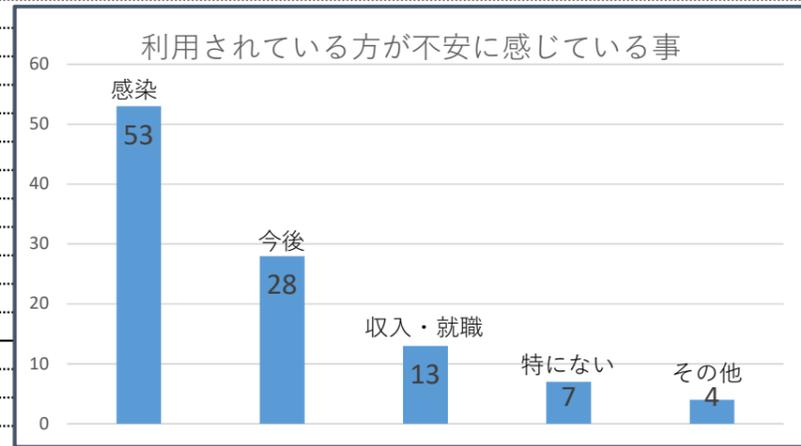


利用者アンケート（事業所回答用）集計結果

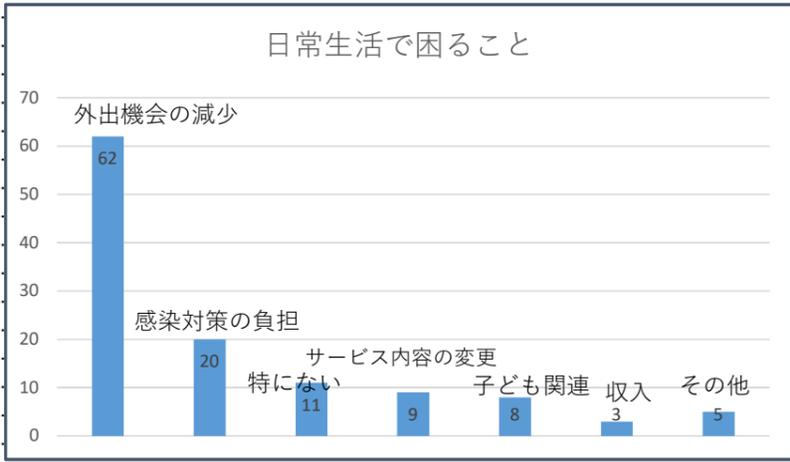
問1 新型コロナウイルス感染症について、利用されている方が不安に感じている事

感染への不安	自身の感染	<ul style="list-style-type: none"> ・感染に対する不安。 ・うつらないか、うつさないか。 ・自分が、コロナウイルスに感染しないか、してないか、不安に感じている方が多いです。 ・通所中の経路にて感染するのではないかと心配をされている。 ・自身が感染すること。 ・自分が感染するのでは？というところ、 ・ご自分自身の感染 ・ご自分が無自覚感染し、 ・自分や家族が感染しないかどうかや、感染したらどうしよう…といったこと。 ・一時期、感染する不安、させる不安を訴え長期欠席される方が多かったです。 ・通所したいけど、集団の中に行くと感染のリスクが高まる ・来所することで感染のリスクが高まることを心配していて欠席も多いです。 ・現在はだいぶ落ち着いてきた様子が見られていますが、緊急事態宣言時や東京での感染者が増え始めた頃は、通所により感染するのではと不安を感じる方もいらっしゃいました。 ・コロナウイルスが流行し始めた頃より現在までお休みをしている利用者様があります。本人ではなく保護者様より事業者の対応についての質問がありました。 不安な事は感染しては困るという事に尽きるのではないかと思います。自分で話すことが出来ない場合は特に慎重になると思います。 ・事業所は一定の通勤（通所）を要し、集団になり得る場なので、感染の不安は誰もが感じていると思います。 ・一部の利用者は感染しないか心配で就労に行けなくなっていた。 ・通所・退所時に感染する事があってはならない ・集団で人混みには行かない ・人が多い場所に行くこと。 ・買い物や散歩等で気分転換を行っていた方はストレスを感じていた様子。 ・年齢が高い利用者が多いので、重症になる確率が高く感染が怖い ・基礎疾患があるお子さんがいるので、感染した場合に重篤な状態になるのではないかと通うのを休んでいた。 ・2. どのように感染するの？・感染したらどうしよう ・事業所で感染者が出る事。 ・密になること。 ・複数で使用するものからの感染。 ・訪問介護事業所の為、訪問するヘルパーがウイルスを持ち込むのではないかと心配されていた。 ・デイサービスなど人が集まる場所は感染の不安があり休まれていた。 ・万が一ヘルパーから感染することを心配しています。そのため、一時期提供を休んでした利用者がありますが、現在はサービスを再開しています。 ・36℃後半の熱出た際にコロナと疑いではないかと不安になってしまう。陽性者が出た際に自身もかかるのではないかの不安感 ・感染するのではないかと怖い。 ・コロナにかかったらどうしよう。もしくは、もうかかって治ったたかもしれない。9月1日から9月3日まで軽い発熱と鼻水と咳があったため仕事を休んだ。 ・いつ感染するかも知れない不安 ・自身がコロナにかかっているかどうか分別のつかないことへの不安 ・自分自身が感染しているのではないかと、という不安。 ・街なかに出かけるのが怖い ・好きなカラオケや野球観戦に行けないけれど、我慢している ・体調の悪そうな人に対して過敏になっている ・通所中に感染してしまうのではないかと ・事業所通所するうえで、公共交通機関を利用することで感染リスクが高まること ・緊急事態宣言の最中は、公共交通機関を使つての通所になる為、不安の色を隠せない状態であった。 ・公共機関を利用されている方が、家族の反対があつて来る日数が減っている。（送迎がないため） ・公共交通機関に乗って通所すること。 ・公共交通機関に乗つての通所 ・通所の際、交通機関での感染しないかという不安。
	うつしてしまう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がコロナになってみんなに迷惑を掛けたらどうしよう ・家族に感染させてしまうのではないかと ・本人が家族に感染させてしまうのではないかと ・職場の人等にうつってしまったらどうしようかと思うと怖い。 ・無症状で感染していて親や家族や職場にうつしてしまわないか。
	家族の感染	<ul style="list-style-type: none"> ・感染（自身・家族）に対する恐怖が最多。 ・家族（特に母）が感染して入院となった場合、環境の変化に弱い子どもの心配。 ・利用者本人が感染する不安を感じているが、それ以上に利用者やそのご家族が、ヘルパーやヘルパー経由で感染を拡大させないだろうか、と不安を感じているご家庭が多い。特にヘルパーや訪看など色々な人たちと接触の多いご家庭。



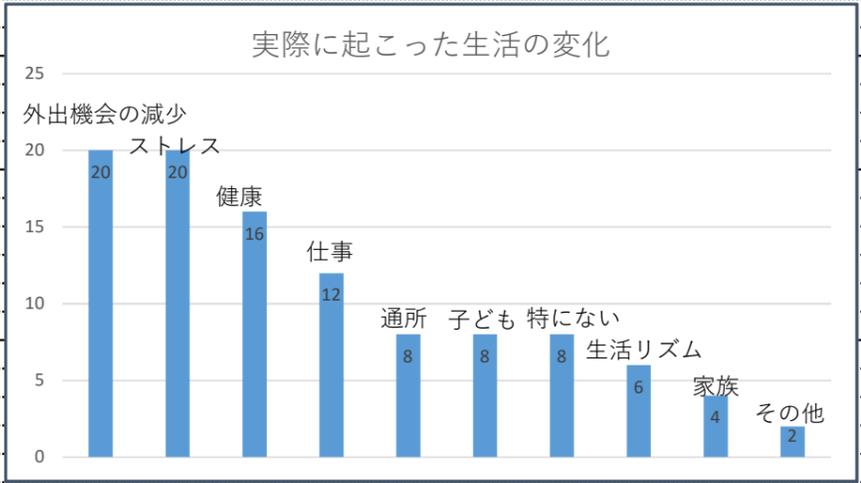
<p>収入・就職</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1. 工賃もらえなくなったらどうしよう ・短縮営業を行っていますが、工賃手取りが少なくなることも、いつまで短縮しなければいけないのか、も不安な点です。 ・しかし、勤務先で減収が起こって居り、その巻き添えを食ってボーナスが減額してしまいました。 ・感染してしまった場合の生活（助成等）。 ・当事業所は就労移行支援事業所なので、就職活動が思うように進まない方がおり不安を感じている様子が見られています。（新規の求人が中々出ない等） ・就職先があるだろうか。働いたとしても障がい者雇用は会社の経営が悪くなった時に真っ先にクビになるのでは？と家族が言っているので不安。 ・コロナの影響で今後の就職先があるか不安に感じる事 ・就労支援を利用している利用者様が、利用日が減っていると仰っていました。 ・就職活動自体に影響が出るのではないかとという件（新規採用を取りやめる企業が増えるのでは、という懸念）。 ・また、最近はお荷も減少傾向（恐らく不況によるもの）にあります。 ・これから先、会社がテレワーク中心になってくるとしたらですが、出来る仕事があるのかどうか？などです。 ・企業見学の受け入れ機会が減っており、企業研究・業界研究が進まない件。 ・仕事がなくなってしまうのではないかと
<p>今後</p>	<p>漠然とした不安</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何時、コロナが終息して、以前の様な日常にもどるのか、 ・漠然とした不安を皆さん感じていると思います。2名ほど、やはり、新型コロナウイルスのことを不安に感じて、通所利用を休んでいる児童が居ます。 ・コロナがいつ終息するのか不安 ・いつまでコロナが続くのか不安です。 ・解決策がなく「どんな状況が・どのくらい続いていくのか」という先のなさが不安 ・不安です。又、きたらどうしようと思っている。 ・どんな世界になってしまうのだろうか ・マスクは意味があるのか。 ・未知な症状にどのように対処したらいいのかわからず不安になることばかり。 ・3. どうしたらいいんだろう？と迷う ・第2波、3波への対応。 ・(3)感染症そのものよりも、新しい生活様式をいつまで続けられればいいのか不安です。 ・冬は咳が出やすいのでコロナかただの咳か、また疑われたらどうしようかと思えます ・毎日のテレビの影響で漠然と不安を感じている方が多いです。「もし感染したら自分は死ねばいいんだ。」と希死念慮のようなことを話される方もいます。 <p>治療法が確立されるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療方法が不確立。 ・いつになったらワクチンや特効薬が出来るのか心配。 ・(1)今までの季節はどうにかかなりましたが、インフルエンザと同時流行するかもしれない冬が怖い不安です。 ・もうすぐインフルエンザの時期に入るため、新型コロナウイルスとインフルエンザが同時感染しないか、懸念しています。 ・(2)どこまでアルコール消毒すればいいのか不安です。 <p>情報による不安</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミが嘘ばかりで煽る。 ・感染数に関する情報はかりで、情報疲れしてしまう ・ニュースやネット記事に対して不安や心配等精神的な影響が出ていること。 <p>子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつまた幼稚園や学校が休校になるか心配 ・通所児童の中でクラスターが起こらないように消毒などまめに行うようにしているが他に効果的な方法はないかと考えます。 <p>サービスの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイが必要になった時に預け先が見つかるのかという不安。 ・また、今までどおりのサービスを受けることができるか心配しています。 <p>勤め先</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院で勤務しているので、日々、緊張感があります。 ・他にも理由がありますが、会社の将来に不安があります。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が児童なので理解度に差があり、空気感染を心配して換気をしない方がいいと言う子どもがいたり、玩具に触れる事をためらったりと、情報の影響を受けやすい。また、説明をしても、理解が難しい場合がある。 ・情報が多すぎて把握できない ・マスクが苦しい、暑い ・人に会えていないことが辛い
<p>特にない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策の消毒等実施しているので、特に不安に感じている事は聞こえてきていません。 ・現状安静 ・だがほとんどの利用者は気にすることなく生活をしている。 ・私個人については特にありません。 ・今のところ具体的な話はないです。 ・不安は、ありません ・またその反面、マスクの着用が無頓着であったり予防をされていない方もいます。

問2 新型コロナウイルス感染症の影響により、日常生活で困る事等

	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外活動（主に屋内施設）に行けない ・行動が制限される ・外出できない。デイに行けない。買い物に行けない。家族に行動を制限される。 ・自由に出歩けない、カラオケに行けない、街に行けない、不特定多数の人が集まる施設に出入り出来ない、 ・カラオケに行けない。ランチバイキングに行けない ・簡単に外出できない。 ・今まで普通にできていた、外出、外食などが思うようにできない。 ・美容室になかなか行けない。 ・自由に外出できないこと。 ・感染を恐れ、外出すること自体も減らしている。 ・人が集まる場所に行けない。（不安） ・1. どこへも行けない2. することがなくなった ・外出の楽しみが減る、つまりストレス解消法が減る。 ・休日に友人と会えないことでストレスがたまってしまう。 ・旅行の予定をキャンセルせざるを得なくなった。 ・趣味で通っていた教室がお休みになってしまった。 ・移動支援などは自粛している方がいたようです。 ・カラオケに行けない。 ・以前のように人との距離を近くに過ごせない。 ・趣味のイベントに行けない（野外、室内）外に出ると感染するリスク恐れ、家で過ごす時間が増える ・コンサートなどが開催中止となり外出機会がない。 ・(2)スーパーに行くときに、時間帯の調整をしていること。 ・外出が制限される ・食事や外出、旅行へ行けない。 ・趣味活動などでの外出が困難。 ・旅行やアウトドア、カラオケなどの趣味を満喫できない ・今まで当たり前と思っていた行動に制約がかかることがストレスになっている。 ・休日の外出が減り、自宅でできるストレス発散方法が少ないなど ・全ての行動範囲が狭くなりストレスが溜まっている ・外出による気分転換の機会が少ない。 ・図書館や映画館美術館等に行けない期間が長かったので気持ちがふさがちなこと。 ・気疲れ ・在宅利用の日が増えて外出機会が減ったことで体力が落ちた。 ・通院や問診の時間や回数が制限されているところもある。 ・サークル活動が長期に休みにになった ・ヘルパーさんとの余暇外出の機会が減った ・床屋や美容室に行けない ・グループホームで外出制限を受けた ・病院から通院等の自粛要請があった ・介護退所の危機に陥っている ・病院に通院出来ない。 ・リハビリに通えない。 ・買い物を控えている（高齢で感染予防）。 	 <table border="1"> <caption>日常生活で困ること</caption> <thead> <tr> <th>困りごと</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外出機会の減少</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>感染対策の負担</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>サービス内容の変更</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>特になし</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>子ども関連</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>収入</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	困りごと	回数	外出機会の減少	62	感染対策の負担	20	サービス内容の変更	11	特になし	9	子ども関連	8	収入	3	その他	5
困りごと	回数																	
外出機会の減少	62																	
感染対策の負担	20																	
サービス内容の変更	11																	
特になし	9																	
子ども関連	8																	
収入	3																	
その他	5																	
外出機会の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・外出が制限される ・食事や外出、旅行へ行けない。 ・趣味活動などでの外出が困難。 ・旅行やアウトドア、カラオケなどの趣味を満喫できない ・今まで当たり前と思っていた行動に制約がかかることがストレスになっている。 ・休日の外出が減り、自宅でできるストレス発散方法が少ないなど ・全ての行動範囲が狭くなりストレスが溜まっている ・外出による気分転換の機会が少ない。 ・図書館や映画館美術館等に行けない期間が長かったので気持ちがふさがちなこと。 ・気疲れ ・在宅利用の日が増えて外出機会が減ったことで体力が落ちた。 ・通院や問診の時間や回数が制限されているところもある。 ・サークル活動が長期に休みにになった ・ヘルパーさんとの余暇外出の機会が減った ・床屋や美容室に行けない ・グループホームで外出制限を受けた ・病院から通院等の自粛要請があった ・介護退所の危機に陥っている ・病院に通院出来ない。 ・リハビリに通えない。 ・買い物を控えている（高齢で感染予防）。 																	
	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関を利用するが、バスなど換気が徹底していないときがあり、乗るのを躊躇してしまう。 ・公共交通機関を使用しないといけない場所に行く頻度が下がった。 ・公共交通機関に乗るのが怖い。 ・交通機関が怖い ・地下鉄に乗るのが不安に思っている利用者がいた。 																	
	<ul style="list-style-type: none"> ・人とかかわりが減り、孤独になる。 ・外食を控えるようになり友人との交流が減った。 ・遠方の家族を呼びづらい。 ・家族や友人の来訪が減った。 ・対面で人と会う機会が減った。 ・友達と遊べないことです。 ・強いて言えば、感染を防止する為に今年はお盆の墓参りと親類の訪問が取り止めにした事です。 ・一人の時間が増えた ・病院のお見舞いに行けない ・病院での面会ができないこと。 																	
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方より「遊ぶ場が減り、子どもの発散をさせる場が減っている。」保護者の方の、臨時休校期間の精神的な疲れが、今どっと出ているようにも感じます。 ・高齢の母がいるのですが、コロナに感染しないかとても心配しています。出かけるのも嫌がっています。何か家でストレス解消ができるといいと思っています。 																	
	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な困りごとは最近聞かれなくなったが、年2回ほど催していた事業所の会食が今年は 計画さえされていないのが残念に思っているとのこと ・1)「新しい生活様式」の実践で、支援機関のレクリエーション、食事会がなくなったこと。 																	

感染対策の負担	健康的負担	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクの着用は利用者の負担になる ・マスクをつけて歩くのが息苦しく体力が無いので外出が困難。 ・マスクの着用を求められる時が多く、閉塞感圧迫感から長時間つけていられない特性に合わせるができない。 ・マスクの着用がわずらわしい。 ・マスク着用が長いと、鼻の下や口荒れが治らない ・アルコール消毒などで手荒れが辛い ・マスクはいつまでつけないといけないのか。
	金銭的負担	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク、消毒液等が、以前に比べて、価格が高い。 ・マスクや消毒液の代金。 ・ようやくマスクや消毒液などの供給が安定しつつあるが、以前よりも価格が上がり出費がかさんでいる。 ・食品の買い占めなどで安価な食品が少なくなり買い物の負担が大きくなった。
	品不足	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク他衛生用品が手に入らなかった ・マスクなどが高騰しており手に入りづらい。 ・ハンドソープが手に入らない。 ・3. 最初の頃、感染予防グッズが売っていない・高額である為、買えない ・コロナウイルス感染前に購入していた消毒系の商品が品薄になっている ・日常的にはマスクや感染予防の用品が手に入らず困っていました。最近ではアルコール類があるので大丈夫です。 ・感染予防用品が手に入らない。 ・マスク、消毒液の不足
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・店内入り口のアルコール消毒に人があつまり、密になっているけれど、手の消毒と密状態どちらがよいのか疑問になる
収入	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事が全然なくなってしまったので、仕事を解雇されたらどうしよう ・私自身または同居している家族が感染あるいは濃厚接触者になった場合、医療費がかかってしまい、収入や職を失う事に困っているというか、恐怖心を覚えます。 ・残業禁止になり給与の手取りが減った(昨年より正社員になり基本給は上がった為税金や保険など引かれる額は増えたのでパートの時と同じような金額になった。これからずっとこのままかと思うと不安。 	
子ども関連	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが状況を理解できないことで、環境の変化にストレスを感じ不安定になる。 ・学校やデイサービスに行かせることも不安だが、行けないことで生活のリズムが崩れる。 ・マスクができない、こまめな手洗いや消毒、ソーシャルディスタンスを取ることが難しい。 ・(特性のある子どもたちの為、) マスクを着けていられない。声のボリューム調整や距離間のキープが難しい ・対応が難しいお子さんが、休校期間中ずっと家にいることで保護者が疲弊し、虐待のリスクも高まる。 ・公園で遊ぶことも周りの目が気になる ・子どもがゲームやYouTubeなどに熱中する時間が増えた ・学校が休学になり学習できない。 	
サービス内容の変更	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを企画したいが三密を考えると行えるものが少ない。 ・事業所内の土曜日行事は自粛をしました。 ・活動内容を変更しています。 ・交通機関を利用しての活動は中止、 ・車も密にならないように外出レクを控えています。 ・クッキングや食事の活動も今年度は中止にしました。 ・上記に加え、レクリエーション、行事も行えず、ストレスを不満感があります。 ・一日の通所時間が半日になり、時間に追われフラストレーションがたまっている。 ・コロナ以前のような活動プログラムが出来なくなり、活気がなくなった。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・人と会うのが恐ろしい。 ・職場で感染者1号になってしまわないかととても不安です ・相談員も含め訪問はしてほしくない。 ・映画館内での介助や支援が受け難い(映画館の人に、ヘルパーの介助や支援が必要でも距離を取られる)。 ・体育センターやプールなど、順番待ちの時があり、待てない。 	
特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・現状安静 ・特になし ・特になし ・そこまで困っていることは、ありません。 ・想像していたより不便を感じていない印象を受けました。自宅での生活の方が安定していることが理由とされます。 ・日常生活では、今のところ大丈夫です。 ・困っている事は、ありません ・ないです。 ・困っていることは特になし。 ・困っていることはない ・これは特にありません。 	

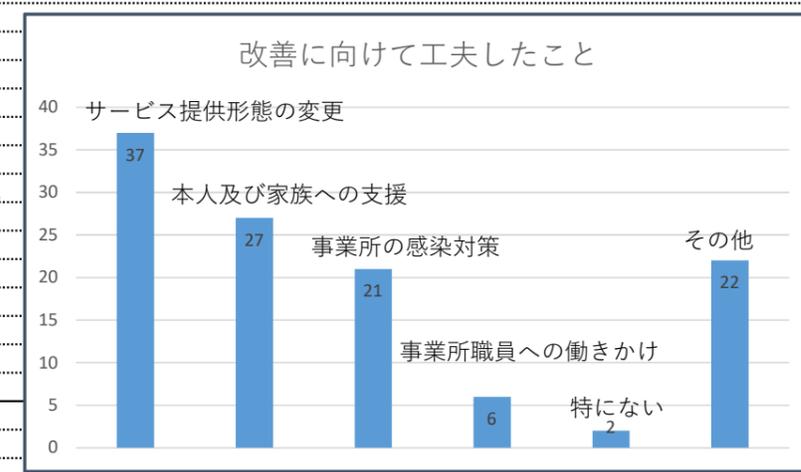
問3 新型コロナウイルス感染症の影響により、実際に起こった生活の変化		
外出	外出できない	<ul style="list-style-type: none"> ・外出を頻繁にしていたが、できなくなった。 ・気軽に受診できなくなったこと ・感染が心配で外出しにくくなった ・外出しにくい家の中での遊びに限界を感じる ・ライブやスポーツ観戦などに制限があり行ける機会が減った。 ・(2)遠方に旅行にいけなくなった。 ・(3)スーパーには、朝7時から8時の間に行く。 ・生活の変化は、道外に行けなくなったことです。 ・カラオケやあんまり遊んだりできないことです。 ・兔に角外出が減って居ります。 ・その為に、会社・日用品の買い物・実家・病院・床屋以外は、ほとんど出かけて居りません。 ・仕事以外で外出する機会が減った ・休日に家に一人でいることが増えた。 ・私の趣味のコンサートや観劇ができないこと。友達との会食は少しずつしているのですが、全く外出しない訳ではないですが。 ・お休みの日は、家族と一緒にうちで、楽しく過ごしています ・別の趣味も持とうと思っています。
	会えない	<ul style="list-style-type: none"> ・市内だけ実家に帰りづらい ・入院している家族に面会できない。 ・人に会えなくなった ・コミュニケーションの機会が減った。
生活リズムの変化	<ul style="list-style-type: none"> ・外出不安により生活リズムの変化 ・自宅で過ごす時間が増え、生活リズムが変化したこと ・自宅でどのように過ごしているかわからなくなる人もいた。 ・通所時間が半日になり時間を持て余している。 ・事業所通所により整っていた生活リズムが崩れる方がいました。 ・家族の仕事が変わり、朝通所前の生活リズムの変化。 	
通所	<ul style="list-style-type: none"> ・外に出ることで精神疾患のある家族に責められるので通所を辞めることにした ・1名、新型コロナウイルス感染拡大の影響で精神的に不安定になり退所しました。 ・通所が困難となった（ご自身は通所希望があっても同居ご家族に通所を反対されてしまう等）。 ・特に「〇〇〇」「〇〇〇」の活動に参加出来ないのは残念です。 ・事業所移籍を考えたが新規受け入れを中止している事業所がある。 ・日々の体調チェックの都度お互いにストレスを感じているが対策の第一は感染しない・持ち込まない、これから冬に向けてのインフルエンザとのかみ合いもしっかり見つめる ・作業所の利用時間が制限されている。 ・勤務時間等が変更になり、従来の時間帯でのサービス（訪問介護等）が受けられない。 	
仕事	出勤日数の減	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事のシフトが全部なくなってしまった ・子供の通っている学校の休校により、仕事を休んだ ・出勤日数が減り、契約更新の見通しが立たなくなった。
	収入の減	<ul style="list-style-type: none"> ・3月上旬に事業所を休みにした。利用者さんの工賃にも影響がでた。生産活動の収入が減った。 ・上記回答と重複しています。その他…福祉学生の実習が、専門学校においては中止になった。 ・就職に向けて行動していたが求人情報が減り倍率が高くなっている。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事解雇された人もいた ・施設外就労が終了した ・(1)会社が1ヵ月休業になった。 ・在宅ワークになって生活リズムが整わなくなった ・時短労働になった ・働いて給与もらえることがありがたいことだと実感します。
健康	体力の低下	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機会の喪失により身体機能が落ち、転びやすくなったり体力が落ちて今までできたことができなくなったり今まで歩いていた距離を歩けなくなった。 ・緊急事態宣言に合わせ事業所を閉鎖し、利用者に健康状態等確認をしたところ、自宅にいることによる運動不足で徒歩出来なくなり家族が救急搬送した事例（当日中に帰宅） ・自宅時間が長く、リハビリへも通えず筋力や意欲の低下。 ・歩行が不安定で定期的にプールに行っていたが、数か月行けず代替で散歩をしていたが、危険も伴い、不安定さもあり思ったより歩けず筋力が低下した感じがある。 ・春先には体重が増えた人が数名いた。
	病状の悪化	<ul style="list-style-type: none"> ・同じく運動不足などで糖尿病が悪化した事例、 ・運動不足とストレスで顔がパンパンにむくんでしまった事例、 ・通所できないことで生活が乱れると精神不安定になってしまった事例がありました。 ・家にいる時間が長くなり、病状の悪化や寂しさが強まっている ・精神科病院に入院した
	感染対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い・うがいの徹底。3密をできるだけ避ける。換気。消毒（手洗いでできないときなど）オンラインのコミュニケーション ・毎日検温とマスクですね。 ・消毒用アルコールを持ち歩くようになった ・家にアルコール度数の高い消毒液を置くようになった ・マスクやフェイスシールド、検温、リモートが一般的になった。 ・マスクの使用・毎朝検温、手指や物品の消毒・来訪者名簿の設置



ストレス	ストレス	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に外出出来なくなり、ストレスで、体重増加、発散が出来ない。 ・体を動かす機会が減ったことや外出できないことでストレスが増加した方がいた。 ・マスクを付ける生活になりストレスが増える ・自宅待機が増えストレス（不穏状態）。 ・通っている病院で、コロナが出たため、すべてにおいて、制限される生活になってしまい、ストレスが増えた ・一人であることで、余計に不安な気持ちになってしまう。 ・通所したいがコロナウイルスの影響で在宅訓練をしており理解はしているがストレスに感じている ・自宅時間が長く、ストレスが増える。 ・外出自粛でストレスが増えた。 ・自粛をどこまですればいいのかわからず、ストレスは増えたように思う。 ・利用様の生活環境及び身体的な変化に異常に敏感になっている ・外出機会が減ったため、利用者本人のストレスになっている。 ・ストレスがたまり、気持ちの切り替えがより難しくなった。 ・引きこもりのような状況からストレスが溜まる。 ・通勤のストレスが増大した ・ひきこもる時間が多くなりストレスを感じている。外出が面倒になった。 ・外出の機会が減り、ストレスが溜まったり、
	情緒不安点	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビから流れるコロナの速報や情報をその都度復唱するなど敏感に反応して落ち着かない。 ・外出ができないなど、これまでと違う生活に不安が強くなりちょっとしたことで泣きやすくなった。 ・感染の不安などから利用児や家族の情緒が不安定になっている事を感じます。
家族		<ul style="list-style-type: none"> ・また、外出機会（通学等も含む）が減ったことによって、その間の世話をする人がいなくなり、家族の負担が増えている。 ・保護者は、茶話会などの機会の減少 ・幼稚園等が休みになり、子どもが家にいるためストレスが増えた→子どもを怒ることが増えた ・引きこもり傾向だった家庭が、感染不安から訪問拒否など外部との関係を断ち、引きこもるきっかけになってしまった。
子ども		<ul style="list-style-type: none"> ・児童は、学校行事の変更や中止など ・学校が休校になった ・学校の行事が変更になったこと。（運動会の縮小・修学旅行の日程や行先の変更） ・保護者が元々病気を持っており、外出への不安があり保育園、療育機関等一時的に通えなくなった。 ・学校の自粛により不登校につながった利用者がいます。学習の遅れに起因するのではないかと推測されます。 ・（特性のある子どもたちの為）臨機応変や、イレギュラーな動きが苦手。その為、休校期間中は外出してはいけないんだ、と家から出ず、事業所を休み続けた利用児童がいた。 ・常にマスク着用で子どもの呼吸の発達に支障が出ないか心配。 ・密を避けるため時間短縮され、作業時間・学習時間が減り、集中しづらい。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・世の中全体的に疲弊感があるため活動中の雰囲気や内容を楽しく安心して過ごせるようにする必要があります。 ・節約がうまくできない。しなきゃいけないと思って行動するけど我慢しなきゃとずっと思っていると辛くなってくる。
特にない		<ul style="list-style-type: none"> ・大きな変化なし ・特に声は聞かれていない ・特に変化はなかった。 ・特にない。 ・特に家族の生活については耳にしない ・新型コロナウイルスが感染前から自宅で消毒や手洗いうがいを行っているため、特に日常生活に変化はありません。 ・変わったことはない。健康に生活できている ・生活の変化は特になし。

問4 問2, 3に対して、実際に改善に向けて工夫した事等

本人及び家族への支援	本人へのケア	<ul style="list-style-type: none"> ・不安が消えるまで何度も面談をする ・不安要素の聞き取り ・面談やヒアリングの回数を増やした。 ・自宅でできる過ごし方の提案 ・毎日の健康状態を把握し、各々の状態に合わせた助言に時間をかけた。 ・生活が今までとは違ってしまふことを意識することを理解してもらった。 ・不要な外出をしないのが一番であることも常日ごろ伝えて来た。 ・解決には至らないことを事前に伝えつつ、個別に会話（雑談）の機会を増やす（3密に注意して）。 ・解決出来なくとも共有することでストレスの軽減を図っている。 ・医療と連携していることもあり、担当医より話をしてもらい安心して通えるよう伝え、1度は療育・保育園に通うことができた。最近は、保護者の病気の状態により左右され来院できていないため、時折電話で状態を確認している。 ・コロナに関しての不安や困りごとなどがあれば、随時聞き取りをするように努めている。 ・就労に行けなくなった利用者に対しては、就労先、本人とも話し合い時間がかかってもいいから行ける様になるまで様子を見る様にし、定期的に本人と話し気持ちを聞いていった。今は少しずつ就労に行けている。
	家族へのケア	<ul style="list-style-type: none"> ・個別にお電話し、気分転換の意味合いでの通所をご案内した。 ・感染不安に対しては、ラッシュを避ける時差通所の提案をしました。 ・個別面談増やしたり、勤務内での話す時間増やしたりしている。 ・活動にポジティブワードを利用して、相手の良い所を見つける、職員同士でも実施しながらみんなで明るく元気に気持ちを上げられるような活動をしています。 ・他は工夫できない。我慢するだけなのでストレスがたまる。 ・保護者の方の悩みやストレスに感じていることを、できるだけ聞き取っていくようにしています。 ・保護者の話を聞く機会を増やし、問題と感じる子どもの行動について考え合った ・不登校に対しては現在家族支援をふくめた面談や家庭訪問を実施しています。 ・母の不安を聞き、不安を示す子どもの状況を関係機関と共有し支援につなげた。 ・「感染症対策下における子どもの安心・安全を高めるために」というセラピストが作ったチラシを配布したり、それを基に保護者と話をしたりした。
	情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染が起らないよう、消毒等の感染拡大予防を徹底、周知した ・必要に応じて、WHOが提唱する『互いに良い関係を築ける関わり』等が書かれた資料を配布した ・コロナ情報を利用者にお知らせする ・より安全に利用者の外出機会をもつために、移手段やなるべく人込みを避けるような行動をすることができるよう情報提供等をおこなった。 ・外出についての意識付けや感染対策について都度都度説明している。
事業所の感染対策	体温確認、消毒など	<ul style="list-style-type: none"> ・施設としては、職員、利用者、全員の検温をして、 ・自分の身は自分で守る。感染しない為の当たり前のこと（うがい、手洗い、検温、消毒等）を実行する。 ・利用者は手洗いうがい後にアルコール消毒を行うよう。 ・職員は出社時検温し記入する。 ・閉所中は毎日利用者に電話をし心身の健康状態のチェック、体温の確認をしました。 ・検温、手指消毒、マスク着用の徹底→非接触型体温計の利用、布タオルをペーパータオルに変更 ・換気・マスクの着用・手洗い・手指の消毒等の基本的な注意を継続しているだけで特別なことはしていない ・事業所の換気、一日3回の消毒、検温、職員はマスク着用で支援をする。 ・事業所通所時の入口における消毒・手洗い・うがい・検温の徹底 チェックリストに記入 ・朝ミーティング時の感染予防体調チェック（毎回行う） ・感染そのものを防ぐために、うがい薬・アルコール消毒薬の設置、こまめにテーブル等を拭き上げるなどの対策を実施。 ・体調管理の強化、施設内のアルコール消毒強化 ・事業所内の消毒の徹底、マスクの提供 ・看護師との連携（体温や血圧測定、その他体調の相談） ・外の人がない場所ではマスクをはずす。 ・作業所の感染対策を強化し、利用する不安を減らせるように整備している。 ・こまめな換気をする ・事業所に次亜塩素酸水の生成機を設置して、手洗いや器物の消毒に使用している
	衛生用品の配布	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクが購入できなかった利用者に対して、事業所で手作りマスクを製作し配布した。 ・マスクは事業所の方で製作し利用者に配布、不織布マスク購入できた分も配布して対応しました ・次亜塩素酸水を利用者に配布し、自宅の除菌に使用してもらった。



サービス提供形態の変更	屋外への変更	<ul style="list-style-type: none"> ・大丈夫な場合は、施設内でレクをしたり、離れて出来る、屋外スポーツをしたりしました。 ・密にならないよう、施設外就労を開始し、集まる利用者を分散させた。 ・公園や遊歩道等開けたところに散歩に出かけるなど密を避けた外出をしている。 ・安全に配慮して外食する機会を設けた ・例年行っている屋外でのBBQパーティーは通常通り実施し
	在宅への変更	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅希望での仕事の実施 ・家から出ることが怖い方には在宅用プログラムを充実させて在宅利用を勧める ・当事業所PCを使った訓練を行っているので、在宅支援中はPCを利用者の皆様に貸出を行っていたので連絡ツールを使用し、カリキュラムで使用するヨガやストレッチの動画のURLをお伝えしストレス軽減に活用してもらった。 ・外出が厳しい方に訪問リハビリでの対応を実施。 ・在宅訓練の提供をし、 ・オンライン支援を行った。 ・通所が困難になった利用者様に関しては在宅支援に切り替え、Zoomを活用した支援を実施した（現在は札幌市在住の利用者様は全員通所なさっています）。 ・外出に不安を感じている利用者には早々の在宅ワークの開始 ・オンライン企業説明会などの機会を提供した。 ・デリバリーを頼み、外食機会の提供 ・休校中、学校からの課題や新しい単元の学習に取り組んだ
	時間の変更	<ul style="list-style-type: none"> ・その後以下のことなどを徹底して行い開所することとしました。・通所時間の短縮（混雑を避けるため） ・時間短縮を継続する。 ・少人数ではあるが、時間延長して対応した。 ・現在、密を避けるため、午前午後には人数を分けて開所している。基本は全利用者とも半日の利用としているが、希望者数名は1日の利用をできるように変更した。 ・その際には安心して来所できるよう、短時間利用（午前と午後に分けるなど）とし、 ・蜜になる事を出来るだけ避け通所の時間等を工夫している。 ・利用者の生活スタイルの変化に対応するために、希望があった場合は提供日時の変更をおこなった。 ・感染防止のため、ヘルパーの移動経路が最小限になるよう提供日時の変更をお願いした。
	密の緩和	<ul style="list-style-type: none"> ・食事は背中合わせで間隔をあける ・昼食時、同方向を向いて会話せず食事をするようにしている ・給食の時に対面で座らないようにした。 ・自席でできる簡単な制作活動に切り替える等工夫している。 ・レクリエーションも少人数で、実施内容も大幅に変更した。対策なので、改善とはいいきれませんが、以上の対応をしています。 ・こういった状態なので、食事会など皆で楽しめる行事は暫く行わない ・一度に集まる人数を減らしたり、活動内容をなるべく個別のものにして準備をした。 ・ソーシャルディスタンスを考えた座席配置
	利用回数の変更	<ul style="list-style-type: none"> ・希望に応じて利用回数を減らしたり増やしたり調整をした ・また、ヨガの回数を増やし心と体のバランスを整えられるようにと行っています。 ・開所日を増やして、外に出る機会を少しでも増やせるようにした。 ・長期欠席していた方が通所を再開する際には、段階的に通所日数や時間を増やす方法をとりました。 ・または通所できる方には期間限定での増改利用を打診。

事業所職員への働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人〇〇〇における新型コロナウイルスへの対策 ～いち早く見つけるための注意点と予防策～と題して利用者へ講習会を開催。新型コロナウイルス感染症を正しく理解した。また今回実際に取り入れた案件では、在宅ワークを推奨し、自宅制限期間の工賃減給を最小限に止めた。以下、講習会内容の一部 1. 自分は元気なのに、事業所が閉所してしまった場合 2. 同居家族が濃厚接触者だった場合 3. 一緒にすんでいる家族の仕事場や病院で、コロナが出た場合など、いろいろなパターンを想定した講習会を行った。他、コロナ差別について、ここの部分を特に、心にとどめてもらいたかった ・密集を防ぐために、ヘルパーが事務所に滞在する機会を減少させた（研修や会議など）。 ・通所時の乗り物の利用の仕方 ・家で出来ることを見つけ楽しむ。 ・仕事はしなきゃならないので、職場の同僚と話しをする。 ・スタッフ、利用者様で業界研究会を実施し、業界への理解を深める時間を設けている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの場を作り、感染対策をしたうえで利用してもらっている。 ・コロナ対策をしながらも、できるだけ、子どもたちが、心身伸び伸びと遊びかかれるような環境やプログラムを設定しています。 ・テレビ・ラジオ・Web等使い観戦している。 ・熱中症対策も並行して行う ・公共交通機関に乗るときは人が少ない時間を考えて利用する。 ・当事業所は幼児から高校生まで幅広い利用者が通所している為、年齢に合わせた対応が要求されます。高等養護学校の利用者に対しては早めに連絡を入れて利用を促すなど工夫をしています。 ・通所に向けてのスムーズステップ支援を行った。 ・仕事量の減少については企業からの聞き取りを強化する ・事業所内で普段とは違ったメニューの昼食を提供し、特別感を演出した。 ・限られたコミュニケーションの機会に出来るだけ参加している。 ・狭い求人の中で応募をし、就職のための活動を続けている。 ・感染症発生時の対策を作成し、利用者や家族にも通知して理解を得ている ・余暇が少ないのでお盆休みに、少人数で外出。 ・都心から郊外の企業開拓へシフトした ・車両を購入した ・工賃支給規程を改定し、向上を図った ・訪問は控え電話や郵送でやり取りをした。 ・春先は公園での散歩やコンビニでも買い物、唯一の外出と言って内容でした。 ・解除後は、事業所からの個別の対応策と、利用者やご家庭個々の感染への対策等を確認しながら対応しています。 ・運動や余暇など、それぞれ同じ内容でも利用目的が違うので、同じ場所への外出でも個々に工夫しながら外出を行いました。 ・公園情報など法人内の通所事業やネットワークのある事業所と情報交換も何度か行いました。 ・緊急事態宣言の外出先に関しては、まずは事業所スタッフが行ってみて、個々のサポート内容を再確認してから利用者にもその情報を伝えて、再開しています。
特になし	<p>特になし 特になし</p>